

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）2014 年度教育研究報告書

事業課題名	メディアで見る外国の日本観及び日本の自画像と対外観
代表者名	永井 和
事業概要 (600 字程度)	<p>西洋の日本観と日本の対外認識と自己認識を扱いながら、その共通点とギャップを明らかにすることを目的に、オスロ大学東洋学部准教授の Dick Stegewerns 氏を招いて講義を実施した。16世紀のヨーロッパ人の書簡や体験記から今日の映画やCMまで、西洋の日本観によくあらわれるパターンとその変形を分析した。二十世紀に入ってから、文書よりもより直感的な映像を資料として使った。また日本の対外認識と自己認識に関しては、特に世界秩序とその変転に注目をして、日本人の認識の変化を分析した。さらに近代に入ってから現在に至るまでの、持続的に保持されてきた日本の「近代世界観」を詳説した。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>講義と演習と輪読を合わせた実験的授業をおこなった結果、この 500 年間に日本人が世界をどのように認識・整理し、そしてその中に自国をどう位置付けてきたかを受講者に了解させることができた。それと同時に、世界は日本をどういう風に見てきたのか、日本および日本人の自画像と対外観、そして外国の日本観、これらは現代にも大きく関係するテーマであるにも拘らず、無意識に受け入れられているところが多い。意識的に分析されることが少ないので、日本人の学生にとっては新鮮な授業となり、普段意識することのない、自己認識や他者観に気づくよい機会となった。また、普段何気なく消費している映画やCMIに、これらに関する情報が多く含まれていることを発見し、それを分析する体験をしたことも非常に有意義であった。</p> <p>このテーマに関する講義と演習を行う以外に、総合的英語力を向上させる観点から、英語圏の現代日本学を代表する雑誌などから関連論文を選んで、一緒に読むこともおこなった。受講者が自ら発表をし、それによって英語のコミュニケーション能力を上げることに貢献できた。</p>